5.まとめ

姫野 龍太郎（理化学研究所）

３年間の活動を振り返ると、WG 設立当初予想したことと随分違いがあった。

良い方への思い違いは調査研究に関してで、それぞれの専門家にうまくまとめていただき、非常に密度高く進めることができた。一方で、実際に Grid Computing の環境を用意した実施研究の方は、いくつかの要因から、なかなか思った通りの進捗をしていない。

その要因の一つは開発中の NAREGI ミドルウェアをテストしていることで、もともと配布することを想定した状況にまで至っていなかったこと。このため、OS などを特定したプラットフォームでないと動作しないとか、インストールに非常に手間がかかる、開発中のソフトウェアの提供を受けるため MOU 等の事務手続きが発生するなど、ある程度予想はしていたものの、思った以上に大変であった。これは一方で、開発しているプロジェクト側へのフィードバックとしては十分な意義があったものと考えている。

二つ目はテスト環境を用意するまでにかなりの手間と期間がかかったために、本来ならその上で研究するはずであったサイエンスにおける Grid Computing の特質を調べるまでに至らなかったことである。これは WG にて、NAREGI のα版での不具合の多くがβ版では解決する予定であり、テスト環境として NAREGI β版を改めて導入、やり直すことが適切であろうという結論に達した。

当 WG の活動はこの報告書をまとめとして終了するが､改良された NAREGI を使って、改めて教育や研究においての Grid Computing の利点と使い方を検討する活動が引き継がれていくことを、WG メンバー全員が希望している。

これまで WG 活動に協力いただいた全ての話題提供者、テストベッドを構築するために協力いただいた各機関の技術者・研究者のみなさん、さらに活動を支えていただいた SS 研事務局の皆さんに、深く感謝いたします。